

高橋万里子理事を悼む

CNCP 地方創生事業検討会座長 三井 元子



故 高橋万里子 理事

CNCP 理事で「NPO 法人水・環境ネット東北」の専務理事であった高橋万里子さんが2月5日にご逝去なさいました。昨年8月、痰の絡むような咳がでて検査入院したと伺ってからたった半年のことでありました。

万里子さんとの出会いは、2003年から始まった「いい川、いい川づくりワークショップ」でした。全国から集まった川仲間のきらりと光る活動を見つけ、讃えあう大会です。全国から集まる選考委員は、国交省職員やコンサルタント、報道関係者、NPOなど多彩な顔ぶりで、官民の差なく意見を戦わせます。万里子さんは、この主催団体であるNPO法人全国水環境交流会の副代表理事でもありました。その他にも公益社団法人日本河川協会 理事、浄化槽フォーラム理事、宮城県自然環境保全審議会委員などを引き受け、日本中を飛び回っておられました。

私とはちょうど10歳の差がありましたが、活動の始まりが生活協同組合であったこと、その後、川・まちづくりに興味を持って活動するようになり、雨水利用の普及啓発やエネルギー問題にも積極的に参加していたことなど、すべて私の活動履歴と重なっていて、さまざまところで出会いました。私とは違って地理に明るく、地域の歴史や人脈の広さには、いつも感心していました。

2011年311の東日本大震災を受け、私は東京で「つながり・ぬくもりプロジェクト～自然エネルギーで被災地支援～」という組織を環境の仲間たちと立ち上げました。太陽光・太陽熱・バイオマスで支援するプロジェクトです。私は太陽熱支援のチーフとなりました。

寄贈先を決めるに当たって仙台にお住いの万里子さんに相談したところ、現地事務所を引き受けてくださり、情報を集めてくれました。4月18日の名取市支援に始まり、陸前高田、気仙沼、石巻、山元町、住田町、登米市など、いつも一緒に回り案内してくれました。お陰さまで、私たちは3つの現地雇用チームを作って、175基の太陽熱温水器を寄贈し、設置することが出来たのです。万里子さんは、「被災地現地にいながら、自分たちはそれほど被害がなかったから、何かをしたいとは思っただけけれど、どう動いたら良いかわからなかった中で、つながり・ぬくもりプロジェクトのお手伝いできて、私たち自身も救われたのよ」とおしゃっていました。ご冥福をお祈りしています。



万里子さん（右から2番目）と石巻市支援へ